

25年10月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成25年 9月20日～ 10月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
10月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		25/10月	11月	12月
伐採動向	スギ	△ 8.3	25.0	16.7
	ヒノキ	16.7	16.7	33.3
	カラマツ	△ 12.5	△ 12.5	△ 12.5
	エゾ・トド	△ 100.0	△ 100.0	△ 100.0
出荷・販売動向	スギ	△ 8.3	25.0	8.3
	ヒノキ	16.7	33.3	33.3
	カラマツ	0.0	△ 12.5	△ 12.5
	エゾ・トド	△ 100.0	△ 100.0	△ 100.0
手持立木在庫動向	スギ	0.0	20.0	30.0
	ヒノキ	0.0	0.0	25.0
	カラマツ	0.0	0.0	△ 12.5
	エゾ・トド	0.0	0.0	0.0

伐採動向は、スギは10月のマイナスから11、12月はプラスに、ヒノキはプラス基調で推移、カラマツはマイナス基調で推移、エゾ・トドは大きなマイナス基調で推移。
出荷・販売動向は、スギは10月のマイナスが11月、12月はプラスに、ヒノキはプラス基調で推移、カラマツは10月のゼロから11、12月はマイナスへ、エゾ・トドは大きなマイナス基調で推移。
手持立木在庫は、スギは10月の横ばいから11月、12月は増加に、ヒノキは10月、11月の横ばいから12月は増加に、カラマツは10、11月の横ばいから12月は減少に。エゾ・トドは横ばいで推移、

モニターからのコメント

(伐採動向)

・トドマツ、カラマツは主伐予定無し。カラマツは国有林保育間伐請負12月まで実施。・スギ、カラマツは主伐、間伐とも長雨の影響若干あるが大勢に変化なし。

(出材・販売動向)

・トドマツ、カラマツは需要旺盛、国有林請負実施で一般流通材は無い。・スギは価格、量共に弱気配、カラマツは供給不足のせいが強気配。

(手持ち立木在庫)

・9月に国有林公売でトドマツ立木購入、年内予定量を確保したので年度内購入予定無し。・カラマツ立木強気配。